

平成28年度第1回 名張市地域公共交通会議 事業推進部会 議事概要

日時 平成28年10月26日(水)

午後3時00分より

場所 名張市役所 庁議室

出席者：(敬称略)

(1) 委員

中平 恭之(近畿大学工業高等専門学校准教授)

豊永 育子(公益社団法人三重県バス協会)

木寺 正仁(市民公募)

都志見 耀代(市民公募)

田中 明子(名張市地域環境部長)

(2) 事務局

都市整備部都市計画室3名

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事概要

(1) 事業推進部会の運営に関し必要な事項について

①事業推進部会設置要領に関する事項

・副部会長の指名

公益社団法人三重県バス協会の豊永委員に決定

・会議の公開について

部会は地域公共交通会議から付託された事業を実施、審議し、交通会議へ報告、提案をするのであり、交通会議で審議される際に傍聴の機会があるため、部会については議事録を公開することとする。

・会議記録

主な意見、決定事項、継続審議事項などについて、要旨を取りまとめることとする。ただし、公開に際しては、事前に委員の内容確認を受けることとする。

②事業推進部会設置要領に関する事項

・地域公共交通会議が必要と認める者

今後の取組を進めていくうえで、必要と認める者に参加要請していくこととする。なお、人選については、部会として必要と認める理由が明確であれば、居住地等により限定するものではない。

(2) 平成28年度実施事業について

①利用促進事業について

・事務局（資料に基づき説明）

利用促進のための取組として、9月24日にアピタ名張店で開催した交通安全フェスタにおいてナッキー号の展示及び子ども対象のバス運転士、バスガイドの制服試着を実施した。今後、10月29日（土）にかがやきフェスタでナッキー号展示及び制服試着、11月12日（土）にとれたて！なばり2016でお絵かきバスの実施を予定している。当部会の利用促進活動としての位置づけであるので、委員の皆さまにもぜひご参加いただきたい。

<主な意見>

- ・かがやきは子育て支援施設であるので、バスの展示だけでなく、ベビーカーを利用している人でもバスに乗車できるよう、ベビーカー対応のバス車両があるということ、また、ベビーカーの乗せ方なども周知していくことが大切である。
- ・高齢者はバス停まで行くことが大変である。

<今後の取組>

- ・名張市では、新たな取組として「ケンコウマイレージ」が試行されている。現在は、イベント参加者にポイントを付与し、一定のポイントがたまればお買い物券と交換するというものであるが、そこに公共交通利用によるポイントを追加していくなど、既存の取組との連携を図っていくとともに、新たな取組について検討を進めていく。

②公共交通ニーズの把握について

<主な意見>

- ・朝夕の通勤、通学利用については大型のバス車両が必要であるが、日中の主婦や高齢者の移動については、必ずしもバスである必要はなく、今後検討していく余地があると思う。
- ・東京でタクシーの初乗り410円が実証実験されているが、タクシーをもっと気軽に利用できればよいと思う。細かいニーズに対応していくにはデマンド方式しかないのではないか。
- ・高齢者の自動車の運転は、判断能力が落ちており危険である。名張市でも免許返納が増えてきているものの、返納後の交通手段の心配から返納が進まないという側面もある。免許返納の観点からも公共交通を検討していく必要がある。
- ・福祉交通と公共交通はこれまで同じ目線で議論することがなかったが、今後は福祉施策との連携を図っていく必要があると思う。
- ・地域の方々が主体となってコミュニティバスを運営するということはよいことだと思うが、運営している地域同士が話し合える場があまり持たれていない。行政が主導して話し合いの場を持つべきである。行政は補助金を交付するだけでなく、もっと地域を支援していく必要があると考える。
- ・運営地域の役員なども、高齢化に伴い担い手不足になってくる。岡崎市など他市の事例を参考にしていくべきである。
- ・現在の路線をどう調整するかではなく、抜本的に見直す時期に来ていると考えている。利用者を増やすには、利用者が必要とする路線でなければ、啓発活動をしても利用者は増えない

と思う。

- ・利用者のニーズを把握したうえで、部会として検討した路線再編（案）を地域公共交通会議に提案していきたい。
- ・観光協会等の関係者と連携を図り、コミュニティバス沿線の観光地についてPRし、観光客を取り込んでいくことも必要だと思う。
- ・鳥羽市では、コミュニティバスを積極的に観光誘客に活用している。名張市は、鳥羽市と比較すると観光資源に乏しいが、観光についても検討していく必要がある。
- ・近鉄利用者が名張駅で降りたくなるような魅力づくりが必要だと思う。
- ・若い人たちが移住してくれば、公共交通も必要になる。若い人たちが移住したくなるような交通施策を考えていくべきである。
- ・ナッキー号の運賃1乗車100円についても、利用者の視点から見て値打ちがあると思えば300円でも乗るであろう。『安かろう悪かろう』ということにならないようにすべきである。
- ・住民、利用者のニーズを把握するということがとても大事なことであり、また、難しいことである。部会として、色々な意見を聞いて、できるだけ細かくニーズを把握していきたい。

4. その他

<今後のスケジュール>

- ・部会の開催頻度は月に1回程度とする。
- ・本部会の次回開催は11月22日または29日で調整する。
- ・次回の会議内容は、中平部会長による座学とする。
- ・委員は、次回開催までにどういった事例や情報、勉強会等が必要か検討し、次回会議においてご提案いただきたい。
- ・事務局は、観光関連資料、福祉バス、移動支援等の運行に関する資料を準備する。